

## 第 123 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	未収金	前払金	仮払金
繰越商品	未着品	積送品	前払手数料
不渡手形	支払手形	買掛金	未払金
前受金	仮受金	未払利息	借入金
社債	貸倒引当金	修繕引当金	売上
受取手数料	有価証券利息	修繕引当金戻入	仕入
貸倒引当金繰入	修繕費	支払利息	社債利息
手形売却損	貸倒損失		

1. 決算にさいして当座預金勘定の残高を確認したところ、当社の帳簿残高は 700,000 円であり、銀行側の残高証明の金額は 930,000 円であった。残高の不一致の原因として次の事実が判明したので、修正の処理を行った。  
①受取手形の支払期日到来にともない、銀行で回収した額 100,000 円が当方に未達であった。②買掛金の支払いのために振り出した小切手 50,000 円が決算日現在銀行への呈示がなされていない。③備品購入にかかわる未払金支払いのために振り出した小切手 80,000 円が未渡しのまま経理部の金庫に保管されていた。
2. 得意先足利商店に対して前期に償還請求をしていた不渡手形の額面 800,000 円と償還請求費用 30,000 円のうち、200,000 円を現金で回収したが、残額は回収の見込みがなく、貸倒れの処理をした。なお、貸倒引当金は 500,000 円設定されている。
3. かねて京極商店から購入していた船荷証券 700,000 円を藤堂商店へ 1,000,000 円で売り渡し、代金のうち 400,000 円は六角商店振出し、藤堂商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額は当店を受取人とする藤堂商店あての為替手形を振り出し、同店の引受けを得た。なお、これにともなう売上原価は仕入勘定へ振り替える。
4. 平成 15 年 4 月 1 日に、償還期限 6 年、年利率 2% (利払日は 9 月末および 3 月末の年 2 回) で、額面 100 円につき 97.00 円で発行した総額 10,000,000 円の社債が満期となり、当期分の利息を含めて、平成 21 年 3 月 31 日に小切手を振り出して全額償還をした。なお、同日の決算にさいして、毎期末に行われている社債の評価替えを償却原価法 (定額法) により行った。
5. 機械の定期修繕を期末に行い、代金 800,000 円は翌月末の支払いとした。前期末までに計上された修繕引当金は 500,000 円である。